

Dokkyo Medical University Saitama Medical Center

獨協医科大学埼玉医療センター 病院だより

2023.12
40号



● 主な内容 ●

獨医連が帰ってきました	2
獨協医科大学公開講座実施	3
埼玉県自治体消防75周年記念表彰	3
地域住民が参加する消防訓練(昼間想定)実施	4
院内での忘れ物・落とし物について	4
病院への手紙にお答えいたします	5

獨医連が帰ってきました

獨協医科大学埼玉医療センター 薬剤部
獨医連 連長 鈴木伸志

南越谷の夏の風物詩であり、日本三大阿波踊りの一つである南越谷阿波踊りが、8月25日の前夜祭から26、27日の本祭と通常開催で行われました。通常開催はコロナ禍前の2019年以来4年ぶりとなり、南越谷に獨医連の夏が戻ってきました。

例年8月の南越谷阿波踊りが近づいてくると天気が心配になります。今年は4年ぶりの開催、コロナ禍での開催ということもあり、心配の種が増えました。新型コロナウイルス感染症が5類へ引き下げられ、世間ではコロナ禍前の賑わいがみられています。しかし、病院の中で働いていると以前と変わらぬ緊張感が続いていました。練習中も感染対策を徹底したことで、連員全員が無事にお祭りに参加でき、参加後もコロナウイルスに罹患したとの報告もありませんでした。連員みんなの無事を確認した今、連長としてホッとしているところです。また、私事ですが、娘の大病があり個人的には5年ぶりの参加となりました。5年という年月を経ましたが、当たり前ですが当時のことを忘れることはなく、こんな気持ちで阿波踊りに参加できるか、自分の気持ちが追いつくか心配でした。しかし、阿波踊りにはこんな私でも笑顔にさせる魅力があるのだと再認識されました。阿波踊りっていいですね。

例年総勢100人近い人数で参加していましたが、今年は当院の医師や看護師をはじめとした教職員やその家族など、総勢40名の参加にとどまりました。コロナ禍ということもあり子供の参加は中学生以上としたため、職員のお子さんの参加が5人と少なかったことも一因です。小さい子供の成長を年に一度の阿波踊りで確認するのも獨医連の醍醐味でもあります。来年は小さいお子さんが参加できる獨医連に戻ればと思っています。

獨医連は、病院の中、病棟で入院患者さんの前で阿波踊りを披露し、そして、病院の正面玄関前で阿波踊りをして南越谷の町へ繰り出していました。お祭り当日、入院中の患者さんは見に行けません。そんな患者さんの前で踊りながら出発する時が一番の幸せです。普段は白衣で接している医師や看護師などの職員が阿波踊りの衣装を身にまとい、患者さんの前で阿波踊りを披露します。「えっ、あの先生が？」とか「いつもの看護師さん？」といった声も聞こえ、同時にみられる笑顔、笑顔、笑顔。そして時にはうれし涙も…。そんな阿波踊りが獨医連なのです。いろいろな制限があり、ここ数年は病棟での入院患者さんへの阿波踊り披露はできていませんが、いつか復活できると信じています。

最後になりますが、毎年ご支援いただいている大学並びに病院関係者の皆様、当日のお手伝いをしていただいた関係者の皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。そして獨医連では来年の南越谷阿波踊りに参加する連員を募集しています。「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々」。この言葉通り、やはり一度阿波踊りを経験してもらおうのが一番かと思えます。連員一同、心よりお待ちしております。

さあ、来年へ向けてまだまだ獨医連行きますよ～「やっとさー、やっと、やっと！」



獨協医科大学公開講座実施

地域の方々を対象とした医療に関する教育・啓発活動として、10月7日、14日、28日の土曜日に約4年ぶりとなる対面での市民公開講座を実施いたしました。新型コロナの影響により中止となっておりましたが、5類移行に伴い今年度より再開することができ、定員数80名がすぐに埋まるほどの申し込みがありました。

今回は『健やかに老いる』をテーマに糖尿病内分泌・血液内科の橋本教授、整形外科の神野教授、リハビリテーション科の上條教授よりご講演をいただき、各講演の最後には活発な質疑応答が行われました。また、最終日には座長である皮膚科の片桐教授より受講証書を代表者へ授与し、大盛況のうちに幕を閉じました。

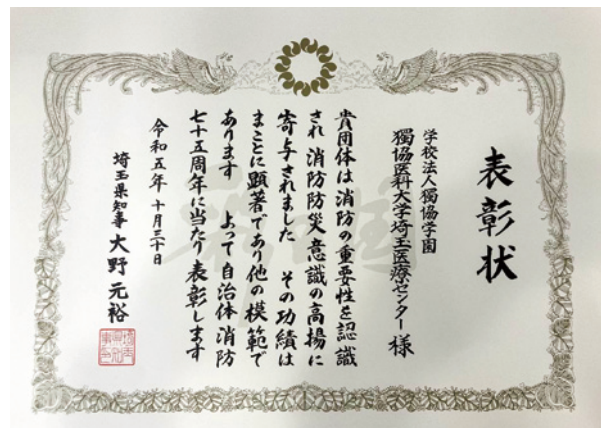
今後も地域の皆様の健康増進に寄与する活動に取り組んで参りますので、ご興味のある方のご参加をお待ちしております。



埼玉県自治体消防 75 周年記念表彰

本年は埼玉県自治体消防が発足してから75周年に当たることから、消防業務に対して功績のある団体等に対して知事表彰が行われ、当センターが気管挿管および薬剤投与の実習病院として、救急救命士の育成に貢献し、救急業務に係る功労団体として表彰されました。

今後も地域の消防防災体制の一層の充実強化と防火思想の普及・啓発に貢献し、皆さまに信頼される医療機関を目指してまいります。



地域住民が参加する消防訓練(昼間想定)実施

10月28日(土)午後3時55分より、4号館3階第3会議室を出火元とした消防訓練を実施いたしました。

今回は、市民公開講座を受講した一般の地域住民の方々に、本訓練参加の希望を募り、火災に伴う避難誘導訓練および安否確認訓練を目的に実施しました。本訓練は、職員においては通常の訓練と違い、一般の方の避難誘導・安否確認を経験できることや、地域住民の方々においては大型施設からの避難訓練を体験できるなど、大変有益な訓練となりました。

また、訓練終了後の講評では災害対策委員長の松島教授より、当センター周辺の災害時避難所や備蓄食料のご説明をいただき、実際に当センターにおいて備蓄している災害用食料を試食用として配付するなど、災害に対する備えを改めて考えていただく機会となりました。

今後も病院の危機管理活動に努めていきたいと思っておりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



院内での忘れ物・落とし物について

病院敷地内で拾得した忘れ物・落とし物は、病院で一定期間(概ね3ヶ月)保管しますが、持ち主の方が現れなかった場合は処分させていただきます。

ただし、長期保管の困難なもの(飲食物、衛生管理上不適切と判断したもの)に関しましては、早めに処分いたします。

また、貴重品類は保管期間に関わらず越谷警察署に届け出いたします。

なお、忘れ物・落とし物が見つからない場合におきましても、当院は責任を負いかねます。

院内での移動やお帰りの際は、忘れ物や落とし物にご注意ください。

【院内の忘れ物・落とし物に関するお問い合わせ先】

1 階南守衛室

【お問い合わせ時間】

9:00～18:00(第3土曜日・日曜・祝日を除く)
電話:048-965-1111(代表)

病院への手紙にお答えいたします ～2023年11月号～

* 公衆電話について

デイルームに公衆電話を設置してほしい。

お答えいたします

貴重なご意見をありがとうございます。公衆電話については近年、全国的に公衆電話自体が撤去傾向にあり、新規設置は今後もしない方針です。ご理解の程よろしく願いいたします。（庶務課）

* 診察（皮膚科）について

今日は朝9時から来て皮膚科の対応にがっかりしました。終わったのが、午後14時56分。あまりにもひどい対応で、本当に疲れました。もう少し親切にしてほしい。

お答えいたします

患者さんがどのような事情で診察終了まで長時間要したか、電子カルテと当日の勤務者からの聞き取りでは分かりませんでした。当科ではできるだけ予約時間や来院時間などによる診察順番を守りながら、診察するように心がけています。患者さんの状態や検査の必要性により、診察順番を変更することもあります。検査の必要性が予見できない場合もあり、検査が遅くなると診察終了までに長時間を要してしまいます。また、当日の勤務人数などを確認したところ、スタッフが少なかったようです。そのために、待ち時間の長くなった患者様への配慮が不足した可能性もあるように思われた。今後は診療体制を整え、待ち時間が長くなりそうな患者さんへも十分な対応ができるように、スタッフ一同努めてまいります。（皮膚科）

* お礼

入院に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。丁寧で優しくご対応いただきました。面会できないご時世ですが、毎日皆様が明るく接してくださり、不安が最小限になりました。ありがとうございました。

* 病院への手紙について

患者さんから寄せられる「病院の手紙」につきまして、病院長をはじめとする当院幹部役職者が目を通したうえで、該当部署において対応などを検討しております。

また、隔月開催している医療サービス委員会において改善案の計画・立案を行っておりその中で改善できるものは早急に対応し、検討を要するものは少しでも患者さんのご要望にお応えできるよう日々努力しております。なお、いただいたご意見・ご要望について個別に文書やメール等で回答はいたしておりませんので、何卒ご理解のほどよろしく願いいたします。

皆さまからのご意見、そしてその回答については、この病院だよりを通じて一部ご紹介させていただきますが、それ以外のものにつきましても、現状において可能な限り然るべき対応を行っていることをご理解賜りたいと思います。

